

# 飯塚市で「まちづくりシンポ」

## 「市民主導」呼び掛け



飯塚市中心市街地活性化に向け、「市民主導のまちづくり」の重要性を話し合ったパネルディスカッション

飯塚市中心市街地の活性化を模索する「まちづくりシンポジウム」が28日、同市飯塚のコスモスコモンであった。主催の市民団体が、各団体が連携してまちづくりを図るための組織「飯塚まちづくり協議会」（まち協）を6月にも設立する構想を発表。参加した市民に「市民主導のまちづくり」を呼び掛けた。

### 「まち協」6月にも設立

シンポは、昨年6月には、行政と市民との「つなぎ2回目。第1回では「市民団体間で交流・連携すべき」との認識で一致。参加した9つの団体が中心になって構想を検討してきた。

この日は、この団体でつくる「まち協設立準備委員会」の日高健副委員長が構想を発表。日高副委員長は「1市4町が合併して以降連携が取れていない」「市内の82の市民団体が、バラバラにまちづくりをしていく」と指摘。「まち協

は、行政と市民との「つなぎ役」を目指す」として、まちづくり事業の企画立案、まち協や各市民団体の情報発信などを行うことを説明した。

その後、市民団体や飯塚市などのパネリスト6人がディスカッション。同市が進める「中心市街地活性化基本計画」と、まち協構想の関係が話題になったが、同市の橋本周経済部長は「住みやすく、にぎわいのある街を」との方向性は一致する」と発言。コーディネーターの同委員会の正田正樹事務局長が「行政とまち協が補い合い、まちづくりを進めましょう」と締めくくった。

### 市民も期待 先導役に

シンポに参加した市民ら約200人からは「まちづくりの先導役になどまち協への期待の声が上がった。

飯塚市本町の自営業大前光信さん(62)は「まち協が全体のプロデューサーとして、飯塚のまちづくりを先導してほしい」と期待。NPO法人「遠賀川流域住民の会」の窪山邦彦理事長(66)は「まち協の参加者は、商店主、大学教授など地域を一番よく知る人ばかり。行政は活性化計画策定をまち協に依頼してもいい。まち協は自らが信じるまちづくりを押し進めるべきだ」と進言した。

同委員会の前田精一委員長(58)は「来場者から『まちづくりは自分たちで』という参加意識を強く感じた。現在参加している9団体以外に、一緒にやっていく団体をどう増やしていくか。今後の課題だ」と話した。

### アマ音楽家9組 商店街でライブ

飯塚市

飯塚市などで活動するアマチュアミュージシャン9組が28日、同市飯塚の東町商店街三差路でライブコンサートを開いた。商店街に迫力のあるサウンドや歌声が響き、買い物客も足を止めて聞



第2回シンポでは、観光コンサルティング会社「アイデアパートナーズ」（福岡市）の井手修身社長「写真」が「地域が元気になる まちづくりの組織と人材」と題して基調講演した。要旨は以下の通り。

### 「地域資源の活用が鍵」

井手修身氏講演要旨



昨年、飯塚市街地の見どころを示したマップの作製に携わったが、重視したのは「飯塚でしか体験できない」こと。飯塚は多い。DVDなどで旅行以外の「非日常」を体験しているから。今は「どこに行くか」よりも「誰とどんな思い出を作るか」を求める。物見遊山の観光から「生活体験できる」テーマ性が強いなどの観光が集客につながっている。

現在県内や長崎県などで旅館ホテルの再生や、地域の価値創造などのコンサルティングをしているが、「地域資源の活用」が鍵となっている。2008年の観光白書では1人が年に国内旅行する平均は1・55回。20代ではゼロも

市街地だけでなく「まちの物語」を持った場所がたくさんある。発信次第でリピーターを獲得できるはずだ。まちづくりのゴールはない。正解もない。その時々で納得しながら、常に成長し続けるまちづくりを目指してほしい。